

やかたらい

第44号

平成31年
3月

早良区男女共同参画講演会

「地域における男女共同参画がなぜ必要か」

～地域活動に関わる皆さんに聞いてほしいこと～

講師 はぎわら 萩原 こ なつ子さん（立教大学社会学部教授・同大学院21世紀社会デザイン研究科教授）

平成31年
2月9日
（西南コミュニティ
センター）

早良区男女共同参画をすすめる会 活動紹介・男女共同参画〇×クイズ・寸劇「モモタロー・ノー・リターン」



地域社会の中の固定的性別役割を解消し、より多くの人々が参画し、多様性が尊重される地域づくりに向けて講師ご自身のキャリア、豊富なご経験をもとに男女共同参画の必要性について分かりやすく解説していただきました。

昭和的価値観を振り返るため「高校三年生」「ブルーシャトー」「恋のフーガ」などの替え歌を会場全体で一緒に気持ち良く歌いました。

地域社会は、もともと多様な人が暮らしている場であり、男女問わず、人として生きるための力をつけ、自立することが大切。「女性は家庭、男性は仕事」という性別による役割分担をはじめとした「昭和的な価値観」を解消し、誰にでも選択肢があって、多様性が尊重される社会へ徐々に変えていく必要があると強く思います。

講師のお話はユーモアに富んで、まるで「男女共同参画あるある」の笑い話を聴いているようでしたが、特に、印象深かったのは、萩原さんが教授を務められている立教大学がある豊島区のお話。豊島区は、東京23区で唯一「消滅の可能性がある都市」とみなされ、その危機感から、若い女性たちの声を取り入れるための「としまF1会議」が立ち上がりました。

20～30歳代の女性たちが、まちづくりの主役になって積極的に行動し、政策を立てる過程で女性の視点を反映させることを提言としてまとめ、その視点に基づいて豊島区をあげて取り組み、今まで気づかなかった視点を、まちづくりに生かすことができたとのこと。

その結果、豊島区は2017年に『子育てしやすい街、女性が働きやすい街日本一』に輝いたそうです。

さまざまな視点から、合意形成を図りつつ、優先順位を決めながらすすめて築いていく。

地域活動に男女共同参画がなぜ必要か深く理解できた貴重な時間でした。

（百道浜校区 福田 芳子）

各校区の男女共同参画推進組織では、下記の宣言に則り「校区活動に男女共同参画の視点をもたらすこと」を目指して活動しています。

早良区男女共同参画をすすめる宣言

- ①地域で「男女共同参画について考える機会」を提供し、個々の意見を尊重・共有する。
- ②学びと気づきに努め、その成果は発信する。
- ③公民館や校区の各団体の皆さんとの連携に努める。
- ④自治協議会の一員として、「男女共同参画の視点」から、校区行事を盛り上げる。



Bブロック研修会 (飯倉・有田・有住・賀茂・田隈・田村校区)

「一人ひとりがイキイキと輝くために!セクシュアルマイノリティって何?」
講師:三浦 暢久(みうらのぶひさ)さん(NPO法人 カラフルチェンジラボ代表理事)

LGBTに対する正しい知識と考え方を、わかりやすくていねいに教えていただきました。

LGBT当事者は、男なんだから、女なんだからという一般常識の圧力に苦しみ、自信をなくし、孤立している。もしかしたら、身の回りに当事者がいるかもしれない、子どもたちが悩んでいるかもしれない、生きづらいと思っている人がいるかもしれないという認識を持ち、理解と思いやりを持って、力になってほしいとお話されました。

(有住校区 中西 久美子)



Cブロック研修会 (大原・小田部・飯倉中央・飯原・原西校区)

「避難所運営ゲーム HUGを通して考える災害とジェンダー」
講師:武藤 桐子(むとう きりこ)さん(NPO法人 福岡ジェンダー研究所研究員)



Cブロックは、福岡ジェンダー研究所の武藤桐子さんを講師に迎え、災害時の避難所の疑似運営ゲーム「HUG」を実施しました。

避難所では、障がいを持つ方、妊婦、高齢者、外国人など様々な事情を持つ方に適切に対応する必要性に加え、車中泊の方への配慮、物資の受け入れ・保管、更衣室・仮設トイレ・洗濯物干し場の設置など、様々な課題が次々にあがってきます。

焦りや迷いの中で、災害時には、冷静かつ的確に様々な人のニーズに応えることが大変難しく、避難所運営の難しさと男女共同参画の視点に立つことの大切さを実感しました。
(飯原校区 伊崎 みつ子)



Dブロック研修会 (百道浜・百道・西新・高取・室見・原校区)

「男性学の視点から男性の仕事中心の生き方を見直す ~男女共同参画 × 男性学~」
講師:田中 俊之(たなか としゆき)さん(大正大学 准教授)

今回の講演は男性学という新しい視点から、男性が働きすぎてしまう原因や女性の活躍が進まない原因を考える内容でした。

男性はプライドが高いというが、それは人と比較しての「見栄」に過ぎない。男性は仕事の業績や収入で人生を評価されてしまうが、「男性とはこういうものだ。」と一括りにせず、一人ひとりがどのような生き方をするかが大切だと述べられました。

また、男性は高い位置から女性を見てしまうが、有能な上司かどうかは男女に関係なく、全体を把握し、経験に基づく判断や柔軟性を持っているかで判断すべきと述べられました。私も、誰にも迷惑かけず、自分のプライドを持って生き方を追求している人を心から応援していきたいと思いました。
(百道校区 江口 智之)



校区活動紹介

～落語を聴いて大いに笑おう～「小咄からひもとく男女共同参画」

落語を通して、「男女共同参画」という固いイメージをもっと身近に感じていただければと思います。11月13日(火)に、内浜落語会の粗忽屋勤心さんと粗忽屋勤春さんによる、落語と小咄とミニ講話を実施しました。



大いに笑いながらも、落語の世界による男女の姿に、普段の自分の生活やこれまでの生き方を振り返る時間になったのではと思います。参加者の方からも「男女協で落語?と思いました。楽しい時間でした。笑いは良いですね。男女共同参画のことも判り易く話して下さい、いい企画でした。」との感想が寄せられました。



(西新校区 曲手 さよみ)

はじまりは園児の頃の「？」家族×仕事×わたし＝笑顔

小田部校区では、今年度から校区自治協議会の主催で「小田部校区スマイルデー」を開催するようになりました。9月は男女協が主催で講演会を開き、元早良区長の井上るみさんを講師としてお招きしました。

井上るみさんご自身の幼少期から今に至るまでの男女協との関わりや、サラリーマン川柳などを交えながらユーモアあふれる講話で大変勉強になりました。

(小田部校区 前村 久美)



校区防災訓練に参加して



平成7年の阪神・淡路大震災、平成11年の新潟県中越地震の経験を踏まえ、平成17年に内閣府は防災基本計画に男女共同参画の視点を初めて盛り込みました。多発する豪雨災害の影響から、昨年9月8日に校区の防災訓練を行い、男女協委員も運営側のスタッフとして参画しました。当日は300名以上の参加者が来られ、広い体育館

も狭く感じ、避難が長期に渡るとストレスになるのではと確信しました。避難所には、多様な方々のニーズの違いへの配慮等が必要とされます。避難所での二次災害を防ぐためにも、今後も運営側として男女協の視点で防災訓練を継続して行う必要性を感じました。



(飯倉校区 細川 勝子)

スクリーンの中の男と女～ジェンダー～



元RKBアナウンサーの古山和子さんの講演会に参加しました。

やさしい口調の中に映画の中の女性の生き方について情熱的にお話下さいました。「愛染かつら」「クレイマー、クレイマー」「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」「人生、いろどり」など映画の中の女性は、力強い生き方でした。ある女性は政治のトップに上り詰め、また、ある女性たちは高齢化と過疎化のすすむ町に活気を与えていくなど、どの女性をとってもその時代を力強く生き抜いている姿に参加者の方も共感を得ていました。

(野芥校区 上原 緑)





男女共同参画のこれからについて 早良区自治協議会会長と公民館館長に訊いてみました!



入部校区自治協議会
いわなが のぶゆき
会長 岩永 信行 さん

入部校区では、男女共同参画協議会委員の活動の範囲は広く、主催する料理教室や講演会等にとどまらず、校区の敬老祝賀会、新春の集い、運動会、人権フェスタなどのスタッフとして活躍し、まさに「男女が対等に社会のあらゆる分野に参画し、共に責任を負う」との理念に沿ったものです。特に昨今、日本における女性の活躍が世界に比べて弱いことが指摘されています。また、2月9日に開催された早良区男女共同参画講演会では、講師の萩原なつ子さんが、男女の違いで差別しないこと、決めごとには女性も出席して意見を述べることの重要性を語られました。入部では、昨年4月に史上初の女性公民館長が誕生し、訪れる人を和ませておりますが、各種催事では女性の参加が男性よりも圧倒的に多いにもかかわらず、11人の自治会長・町内会長がすべて男性で、連合会の決め事を男性会長のみで行っていることもあり、これからも男女共同参画の意識向上と地域の繁栄を目指します。

2004年、福岡市男女共同参画を推進する条例が制定され、これからは女性もどんどん社会に参加して、自分たちのやりがいを通して立場の確立と向上を意識できる機会を得ました。

これまで男女協委員さんたちの熱心な研修や広報活動により、ようやく浸透してきたように感じられますが、参画社会の中では女性自身の積極性がまだまだ低いように思われます。

そのなかで、女性にとって当然とされてきた家事の分野に、高齢男性の進出が緩やかに表れてきているのを感じてはいませんか？自分にも出来るという自信が得意分野で発揮されているからだと思います。

また、地域コミュニティの拠点となる公民館にも多くの女性館長が就任され、それぞれの特徴で公民館を運営し、地域の人たちに事業をとおして信頼関係を創り上げています。

まずは、周りを見て、これなら参加できると思えばしっかり手を挙げてください。誰にも協力する気持ちとやる気があれば、そこに番がありますよ。



田村公民館
いわむろ かつこ
館長 岩室 勝子 さん

平成 30 年度委員紹介

百道浜 福田 芳子	飯倉中央 東 いずみ	田村 緒方 豊子
西 新曲 手 さよみ	飯原 伊崎 みつ子	野 芥上 原 緑
百道 高山 亜美	原 西松 本 富子	四箇 田古 殿 倫子
高取 一坊寺 優子	飯倉 細川 勝子	入部 上村 義行
室見 江藤 みどり	有田 寿美 恵美子	脇山 馬男木 徹
原 松永 真喜子	有住 中西 久美子	内野・曲淵 高倉 多恵子
大原 安藤 洋子	賀茂 井手口 まり	早良 石橋 れい子
小田部 前村 久美	田隈 有吉 文子	



【発行】 早良区男女共同参画をすすめる会（事務局：早良区地域支援課）

〒814-8501 福岡市早良区百道2丁目1番1号 電話 092-833-4403 平成 31 年 3 月発行